

「第23回 関西 機械要素技術展」に出展 リアルとオンラインで新しいつながりを獲得

10月7日から9日までインテックス大阪で「関西 ものづくりワールド 2020」が開催され、その一環として開かれた「第23回 関西 機械要素技術展」に当社も出展しました。

グループの総合力をアピール

「関西 機械要素技術展」では「工業用ファスナー製品～自動車への使用例」として、当社が誇る冷間圧造技術をわかりやすく一覧にしました。

そのほか☆塑性変形加工技術を活かした当社独自の異種金属接合「AKROSE HYBRID」☆IoTに対応した単軸ねじ締めユニット（P2ご参照）☆AIを搭載した検査装置「MISTOL AI」☆鉄カラーとインサートナットを廃止可能なねじ「カラーレスタイト」☆振動検査機「KizMIL（キズミル）II」なども展示し、ファスナー事業、産機事業、制御システム事業のそれぞれの特長と、さらに他社が追従できない当社の3事業連携の強みをアピールいたしました（それぞれについての詳細はホームページで閲覧いただけます）。



また、☆精密プレス部品（㈱伸和精工）☆ロボットビジョン搭載部品供給機付き包装機（日東公進㈱）、☆抵抗率測定「抵抗率計ロレスタGX」（日東精工アナリテック㈱）など、当社連結子会社の主要品や新製品も訴求しました。

2つのアプローチで新しい出会い

コロナ禍感染拡大に伴いこれまでさまざまな展示会が中止となってきましたが、全員マスク着用、すべての出入口に消毒液を設置、全参加者にサーモグラフィによる体温測定など感染予防対策をしっかりとすることで開催が実現。機械部品、加工技術をはじめ710社が出展したものです。また新しい試みとして、オンラインでも来場・商談が可能になり、社名や業種、職種などを登録すればPC画面上でそれぞれの展示ブースを閲覧でき、各種パンフレットをダウンロードできたり、チャットやテレビ電話などができるようになっていました。従来実際の会場で生身のお客さまと直接お話するだけでなく、まさに新しい日常を模索するリモートでも商談が進められました。



上2点はオンライン展示会見学トップ画面（上）と当社のブース入口。

新型コロナウイルスについては、まだ完全収束とはいきませんが、当社では状況を判断しながら、そのときどきの最善を尽くし、できるだけ多くのお客様ニーズを拾いあげていきたいと考えています

シェアNo1地盤調査機「ジオカルテ」をさらに進化させました

「ジオカルテ」は当社制御システム事業部が製造・販売する「地盤調査機」で、小型・宅地用としては国内では圧倒的シェアを誇り、業界のスタンダードになっています。

かつて「JAXA（宇宙航空研究開発機構）」の月面探査研究プロジェクトに協力した実績もあり、近年は地震の多いニュージーランドや地盤の弱いタイでの産学連携も着々と進み、今後増々、グローバル（ユニバーサル）展開が期待されるものです。

1996年に第一号機を開発販売後、常に改良を加え進化させてきましたが、この度、「ジオカルテIV」および「ジオカルテIV SDS」を開発し、受注を始めています。精度や操作性・メンテナンス性

が従来機よりさらによりよくなりBluetoothやSDカードの標準搭載により試験データの保存や転送作業も楽になりました。



■製品特長

- (1) ロッド回転トルクの増大により安定した試験をサポート
- (2) Bluetoothの標準搭載により試験データの転送作業が容易
- (3) CFカードに加え、SDカードスロット標準搭載によりデータ保存方法を拡大
- (4) スマートフォン専用アプリ開発により試験データの取得が容易
androidスマートフォンに対応した試験データ収集用のアプリケーションを開発

iPhoneアプリは2021年1月以降対応予定

「日東精工アナリテック(株)」から粉体の新しい物質解析ツールが新発売

本年4月に三菱ケミカル(株)からの株式譲渡で、日東精工グループに新たに加わった「日東精工アナリテック(株)」では自動粉体抵抗測定システム「MCP-PD600」を開発しました。

ノートパソコンやモバイル端末、あるいは自動車などには多数の電子部品が利用されています。これらの安全性を担保する電子材料評価の一つが、抵抗率測定です。「日東精工アナリテック(株)」では抵抗率測定装置「ロレスタ・ハイレスタ」を35年以上にわたり販売し、電子材料、電池材料、帯電防止材料などの分野でも採用されてきました。電子材料の多くはカーボンや

金属、セラミックスの粉体で、各種粉体の抵抗率測定には従来品「MCP-PD51」が利用されていましたが、後継機種では粉体同士の密着レベルが低い低荷重域から抵抗率測定ができるようになり、従来品では得られなかった新しい情報を得ることができるようになっていきます。

金属、金属酸化物、セラミック、炭素材料、無機材料などの素材メーカー・ユーザ、研究機関から、電池、コンデンサ、電子部品、自動車などの各メーカーの研究開発部門や製造部門への展開を図ってまいります



「FEEDMAT FMシリーズ」IoT対応モデルを新発売

今般、高速・高精度処理が可能なPLCを搭載したコントローラ（RC77-T1）を開発しました。自動組立には欠かせないコントローラですが、従来品では、拡張可能な産業ネットワークの種類が限られており、多様なプログラムを追加することが難しく、IoTへの対応に課題がありました。それらを改善し、産業ネットワークの拡充とフレキシブルなプログラム対応を可能にしたものです。

じつは国産初の自動ねじ締め機を開発したのは当社です。以来、自動ねじ締めロボット、ねじ締めドライバをはじめとする様々な自動組立装置を手がけ、IT

製品、家電、住宅設備、遊技機器など幅広い産業分野で活躍しており、とりわけ厳しい品質や性能を要求される自動車関連業界において高い評価を得てきました。今後もお客様のニーズに柔軟に対応していきます。

RC77コントローラはサーボ昇降式の単軸ねじ締めユニット（FM513VZ）専用コントローラです。操作盤機能とペンダント機能を併せ持つティーチングペンダントを用い、ねじ締め機の動作パターンやねじ締めドライバの設定を柔軟に操作できます



京都はあとふる企業に認証 より働きやすい環境を目指します

京都府では障がい者雇用の理解と促進を目的に「京都はあとふる企業」を認証しています。本年9月、「日東精工SWIMMY㈱」が障がい者雇用に積極的に推進している企業として、この認証を受けました。

同社は障がい者の就労環境を整え、一人ひとりの能力を最大限に発揮できることを目的に2019年9月に設立された日東精工の特例子会社です。建屋をバリアフリーにし、障がいの種類や程度に順じた勤務シフトを組み入れるなどを行っています。当社ではこの「日東精工SWIMMY㈱」で得られる知見・経験を積み上げ、今後も、日東精工グループ全体で障がい者の就労機会の拡大や働く環境の改善に貢献していきます。



ペットボトルキャップ収集で 世界の子どもたちを救おう!

当社では国連の「SDGs（持続可能な開発目標）」の趣旨に賛同し、よりよい社会を目指す当社独自の価値創造モデルを公開、CSR（社会貢献）活動を積極的に行っています。

「次の世代につなげる大切さ」や「絆」をキーワードに、一人ひとりが連帯の心を育み、ともに社会をよりよいものにするを目的として、数年前よりペットボトルのキャップを収集し寄付することで、ポリオワクチンを世界中の子どもたちに届ける活動も行っています。この度84,710個（ポリオワクチン約100名分相当）を収集し、認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付いたしました。ユニセフとの連携のもと、世界中の子どもたちを救うポリオワクチンに生まれ変わり、支援国へ届けられます。

本年は、新型コロナウイルス禍により、従来進めているモデルフォレストや清掃活動などの社会貢献活動の多くが延期や中止になるなか、今できることを精一杯行うことを念頭に、ペットボトルのキャップ収集を積極的に行いました



コロナの
ピンチにも
負けないで!

「受験生応援ゆるみ止めねじ」

今年もプレゼントキャンペーンを実施します。

当社の樹脂用ゆるみ止めねじ「ギザタイト」を特別加工し、ゆるまない＝集中力が続く、実力が発揮できるシンボル・お守りとして、ご希望の方にプレゼントするキャンペーン。2014年からこれまで6年間で約3万人に「受験生応援ゆるみ止めねじ」をお届けしてきました。

縁あって、当社代表取締役社長 材木正己の原稿が『中学校（全日本中学校長会編纂）』という機関誌6月号に掲載されたこともあり、今年は、例年以上の早い段階から、同キャンペーンへの問い合わせや要望をいただいています。新型コロナウイルス禍でふだんとは違う状況下、全国のたくさんの校長先生から直々に「不自由を強いられる子どもたちに希望を与えたい、応援したい」といったお手紙が届き、そ

の誠実でハートフルな内容に当社社員一同が励まされています。

校長先生から頂戴したお手紙の内容やこれまで「受験生応援ゆるみ止めねじ」を受取った方々のエピソードなどについては、次号以降ここでご紹介していく予定ですが、本年度、2020-2021シーズンもプレゼントキャンペーンを実施することを決定しました。例年通り、個人でのお申し込みは3回に分けて、それぞれ先着100名にプレゼント。第一回の応募は12月1日。学校、クラス、クラブ単位でのお申し込みも別途受付ます。詳しくは当社ホームページでご案内していきます。





「読むクスリ」は薬局で、それとも書店で？

大阪の豊中に「ページ薬局」という調剤薬局があります。(今年6月にオープン)。薬屋さんなのに本屋さんでもあるのがユニークです。

最近の本を買うだけならネット書店のほうが便利だと、電子書籍をダウンロードする割合が増えていて、街から小さな本屋さんの姿がどんどん消えています。昔ながらの形態での書店経営が厳しくなっていて、資本力のある大型チェーンか、カフェや雑貨店など異業種との連携が増えていきます。

この「ページ薬局」は、その究極の変化技ともいえるのでしょうか。もともと本が大好きだった薬剤師の方が独立して薬局を開く際に、せっかくなら自分にたくさんさんの影響を与えてくれた本を扱ってみよう、本の取次業務も加えよう、と。

☆

薬を求めて必ず人はやってきます。お客さんは薬の調合

の待ち時間を利用して新刊や話題書に触れ、本を買おうかなという気になります。あるいは、じつは調剤薬局は処方箋がなくても入れるのですが、なかなかふらつとは入りにくいものですね。でも街の本屋さんを覗く感覚でお店に入って、マスクを買ったり、栄養ドリンクを買ったりすることもできるのです。

本は委託販売制なので在庫を抱えることはなく、また、薬局との併設なので薬剤師さんインコール書店員さんなので、余分な人件費や光熱費もかからずと、リスクも低く抑えることができているようです。自己啓発書などに「成功の秘訣のひとつは好きなことではなく、できることをやること」と紹介されることがあります。好き嫌いでは視野が狭まってしまふ、自分ができていることを常に冷静に判断し・極めていくことが大切ですが、「ページ薬局」の店主さんは自分の「好き」と「できる」

のバランスを上手に取られているのでしよう。もちろん、自分の好きな本だけを置くのではなく、どんな本が求められるかの書店員さんとしての目利きが問われていくと思いますが、一過性の話題で終わらず、ずっとうまくいくとい

☆

「ページ薬局」の存在を雑誌で知って最初は、街から本屋さんになくなったので新たに成り立ったコラボレーションなのかと思つたのですが、実

際に足を運んでみると、駅ビルに大きな書店が入っていました。何かがなくなつたので、代替えにということではなく、新たな需要を掘り起こしているともいえるでしょう。

昔ならあり得なかつた、考えられなかつた組み合わせが、まだまだ意外なところから見つかるかもしれません。頭を柔軟にして、情報の感度を上げていきたいものです。

秋は昔から「読書の秋」といわれます。いい本に出合えるといいですね。

連載 32

あやべ ちょっと寄り道

あやべ観光案内所には、 いい気が流れている！

写真はあやべ観光案内所におかれた手作りキャラクター人形です。日東精工が本社をおくあやべの街は「車いす駅伝」発祥の地なのですが、そのことを綾部市市制70周年協賛事業として、マスコットキャラクター「まゆビー」が車イスに乗って宣伝しているわけで、このほのぼの感が心を和ませてくれます。観光案内所の名の通り、観光案内はもちろん、お土産販売、レンタサイクルなど他所同様の各種機能を備えています。大きな水槽に由良川に棲む魚たちが泳いでいるのを眺めながら列車やバスを待つこともでき、駅前の一等地、案内、ここが穴場の癒しスポットかもしれません！

